

かもしれません。これまでのペースを乱さないでやるか、じっとして
いたほうがよいと考え、安全第一でいきました。

順位も収益率の差も11月中旬以後は、テロ事件の時以外の2位炭谷
氏と似たような収益曲線を描いていたようなので、似たようなマーケ
ットで似たような運用方法を利用しているのかと思いました。

12月は流れに乗ることができませんでした。収益率を大きく落と
すことなく終了できました。個人的な課題は、最後の上昇相場に全く
乗れなかったことで、どんな売買サインが出ていたのかを検討する必
要があるようです。

順位発表をしてみると、最後の12月は収益率を上げることができな
い人が多かったように感じます。第1回大会を第1位で終わったこと
は光栄なことでした。

Part 2

Part
Part

相場の勝ち組に入れ
炭谷道孝

はじめに

どうすればトレードの勝ち組になれるのか

私はリアルマネーによるトレーディングコンテスト「ロビンスタイコム先物チャンピオンシップ」で200万の資金を半年で約1500万にしました。灯油の日ばかりを中心に、1日100枚前後売買してきました。これから私がどんな手法でどんな売買をしてきたのかを書いていきます。しかし、私がこの本で心底書きたいことは、商品相場というゼロサムゲーム（だれかの儲けはだれかの損。売買に参加している人の合計の損益がゼロになるゲームのこと）のなかで、どうすれば勝ち組に入れるかということです。

とても多くのトレーダーが、相場で損をしています。もしあなたが損をしているトレーダーならば、自分がどうして儲からないのかを考えてみてください。運が悪いからだと考えているのなら、即刻相場をやめるべきでしょう。運が悪いのではなく、下手なのです。マージャンで上手な人は、初心者に勝つことができます。同じように相場でも、下手な人が多ければ上手は儲けることができます。

相場で儲けるとは上手になることです。上手な人は、並の人よりも優れた手法を持っています。人間は弱いもので、利が乗った玉は早く

手仕舞い、損をしている玉はじっと持ち続けてしまいます。それが人間のサガというものです。そんな人間のサガを克服するためには、システムを取り入れる必要があります。

自分は他人と違って儲かるかもしれない、というような楽観的錯覚のなかで人は生きていますから、思うようにいかなかったとき、冷静さを欠き、泥沼におちいる可能性があります。3度のメシよりも相場が好きな人は別ですが、儲けることのみ考えている人は、己を捨てシステム化することを考えてみるべきでしょう。

相場で勝者になるための3つの柱

相場で勝者になるための方法を執筆するに当たって、私は3つの柱を立てました。

1つ目の柱は第1章の**心がまえ**、人生論です。相場をする前に必ずくぐっておくべき、とても大切なことです。自分は何者かをじっと考え、自分の弱さに思いを巡らせてください。いまさら精神論なんてと思っただけではありません。心の持ち方が、儲けるための前提にあるのです。

私の身近に商品相場で損をし続けている人がいます。いくら私が口をすっぱくして講釈しても、そのやり方を変えようとはしません。冷静になって教えられればいいのですが、なかなかわかってもらえないためについつい怒鳴ってしまい、相手も意固地になってか、いまだにおカネをドブに捨てています。損をしている人はここを必ず読んでください。商品取引の構造を知らなければ、あなたはやがて地獄の門を

叩くことになるでしょう。

2つ目の柱は**具体的な売買手法**です。第2章から第4章まで、日ばかりで儲ける方法2つと、実際に私が先物チャンピオンシップで儲けた手法を紹介しています。

日ばかりは、仕掛けたその日のうちに決済をしますから、そのあと世の中で何が起ころうと安心して眠ることができます。ただ、日中に注文を出さなければなりません。私の紹介する手法なら、携帯電話等で注文を出せる人、あるいは午後3時から30分間時間のとれる人なら可能です。

いま、儲かると述べましたが、商品市場は基本的にゼロサムゲームです。参加者全員が儲かることはありません。マージャンなどのギャンブルと同じで、だれかが得をするとだれかが必ず損をします。勝ち組に入るためには、人よりも優れた何か（戦術）を持たねばなりません。漫然とやっているだけでは結局負けてしまいます。もちろん、カンに頼っても駄目です。勝つ人は、そういう人をカモにします。いや、そういう人がいるから、勝つ人は食べていけるのです。

では私の勝てる戦術とは何か。

戦術の1つ目は、注文が自分の考えとは逆になってしまう、コンピューターがはじきだした、「**とうきび日ばかり大作戦**」です。

次は、負けを認め、降参する人から金をまきあげる方法。「**3時から30分間石油攻略法**」です。

ぜひ熟読してください。そして、私の考え方を理解しようとしてしてください。しかし、100%モノマネをしても駄目です。相場はゼロサムなのです。相場で儲けるには、こっそり自分だけの攻略方法を構

築することです。そう、こっそりが重要なのです。私の思考回路を感じてください。

そして、ロビンスータイコム先物チャンピオンシップで実際に売買した方法についても書きます。もしかすると、読者の皆さんはこれが一番読みたいのかもしれない。しかし平成14年初秋の今、同じようには実行できなくなっています。具体的に攻略した方法を書いておりますが、儲かる方法は長続きしないものですね。残念です。ですから、ここで私の考える道筋を読み取ってもらえればと思います。

最後の3つ目の柱は、第5章の**資金管理**についてです。これはまだ研究途上にありますが、3時から30分間石油攻略法を例にして、資金に対してどれくらいの枚数を建てるべきかを考えます。相場で生活するには、資金管理は重要な課題です。

あなたがこの本を手にしたのは何かの縁です。どうか何かを感じ取ってください。まぶしい曙光が差し込み、あなたの部屋が暖かい空気に満たされることを祈ります。

最後に、タイコム証券にお礼を申し上げます。この本が出版されたのはタイコム証券の働きかけがあったことで、出会いの大切さをあらためて感じます。タイコム証券の長野さん、阿部さん、今回はどうもありがとうございました。

2002年10月15日
拉致被害者5名一時帰国の日

炭谷道孝

第1章 相場で儲けるための心のあり方

相場で損をしている人へ

「今儲かる商品（銘柄）はないか」

「〇〇の買いを持っているが、損をしている。どうしたらよいか」

このような質問をする人がいます。この質問をする人の精神構造は何なのでしょう。相手が自分よりも知識がありそうだから、あるいは個別の銘柄の対処法や儲かる銘柄を知っているかもしれない、と勝手に質問をするのでしょう。気持ちはわかりますが、おカネの儲け方をやさしく教えてくれる高潔な人を求めてはいけません。人生それほど甘くはありません。人間とは何か、職業とは何か、人の世の実相を見る目を養ってください。

相場というものは1分先、いや10秒先もわからないのです。相場で儲けている人は、「上がるだろう」「下がるだろう」という、優れた予測感覚を持っているわけではないのです。

上がるか下がるかわからなくても、相場で儲けることができます。明日以降の相場が少し見える人がいたとしても、日々の相場の変動によって、その見通しも変わっていきます。今の相場観が明日以降も変

わらないと自信を持って言える人などいるわけがありません。もし、いるとすれば、その人の言うことは暴論です。人の言うことを信じるのは人の勝手ですが、相場は宗教ではありません。おカネというフィルターを通すことによって、人は盲目になる可能性があります。どうか、平常心で相場に臨んでください。

私は相場で儲ける法とは、手仕舞いの仕方や資金管理という、上げ下げを当てるなどとは違うところに存在すると思っています。きつい言葉になりますが、「上がる銘柄を具体的に教えてください」などの質問をする人は、最終的には儲けることはできません。他力から自力へ。それが相場で儲けるための第一歩だと思ってください。

経済学者、あるいは商品市況に通じている専門家でも、相場で利益を上げるのは難しいのです。なぜでしょうか？ それは相場というものは、行き過ぎるからです。あなたがいくら「相場は間違っている。私が正しい」と言っても駄目です。損をしているが切りたくない、そんな人を相場のプロは狙っています。おカネを吐き出させ、息の根が止まるまでいじめ続けます。それは、彼らの損が相場のプロの稼ぎになるからです。ゼロサム構造を知らなくてはなりません。他人の損が私の得になる——嫌な言葉ですが、この構造を熟知することが相場をやるうえでとても大切です。

需要と供給の関係から、このあたりが底だろう、天井だろうと専門家が言ったとしても、その通りにはなりません。もしその通りになるのなら、その道の専門家は大金持ちになっています。専門家ですら標的にされる世界なのです。

あとで振り返ると、何であんな値段がついたのだろうかと思うよう

な行き過ぎの値がついています。それは追証攻めに遭い、資金の融通がつかなくなった人々の絶望の悲鳴が織り込められているのです。その裏で、バケツにおカネを流し入れ、凱旋ラッパを吹いているだれかがいるのです。

死体と歓喜の踊りは、まさに戦争そのものです。ですから、簡単に参加すべきではありません。きちんとした戦略を取らねばなりません。人の裏に行く、冷徹なシステム構築が必要なのです。

日本の商品相場は、遠い限月に人気集中します。これはおかしなことです。素人を勧誘するには、半月後に決済しなければならないものを進めるのは難しいが、半年後なら誘いやすいという、それだけの理由で客殺しの期先限月があるようにさえ私は思います。くどくなりますが、もう一度述べます。だれかが損をしてくれないと、儲からないのです。だれをターゲットにするのか？ もしかするとあなたがその標的になっているかもしれないのです。

標的になる人とは、損になっている玉を持っている人です。そのような状況の人が、投げや踏みをするによって、損が確定します。「勝ち易（やす）きにつけ」という名言がありますが、利の乗っている玉は持ち続け、トレンドに逆らった玉があれば早く清算する姿勢が大切です。夫は、良妻を大事にし、悪妻は手放す。妻も夫に対して全く同じ。悪い伴侶は見捨てねばなりません。老いての苦しみは悲しいものです。何のために自分は生きているのかをよく考えて、自分の幸せに重きをおいてください。自分が幸せでないのに、人を幸せにすることはできません。これは決してエゴイズムではありません。損を抱えているようでは、相場の良い発想は浮かんできません。窮地に立たされ

ると、見るもの聞くものすべてが霧に覆われ、実態が見えなくなるものです。バカ息子を可愛がるように、損した玉といつまでも付き合う人は、「ほろび」に美を感じる人なのではないでしょうか。

話を元に戻しましょう。儲かる銘柄はないかと質問する人について述べましたが、それは世間で「どうしたら私は人生で成功するでしょうか」「人生に困っています。助けてください」と他人に聞くのと同じことです。そんなことをいう恥ずかしい大人はそうそういません。相場だから厚顔無恥になれるのでしょうか？

これまで相場で損をしてきた人は、そのまま相場という戦場に出てはいけません。狼が羊のあなたを待っています。人生にはいろんな選択肢があります。世を知り、相手を知り、自分を知って、あなたの進むべき道を歩んでください。

身近な例

私の身近にいるAさんは、売買するときに担当の営業マンに判断を仰ぎます。営業マンというものは、上司からどなられ、客に謝り、それでも生活のためにその仕事を続けなければなりません。彼らのなかで、相場場で食べていく自信のある人は非常に少ないでしょう。そんな哀しいサラリーマンに、命の次に大事なおカネを増やす方法を相談する。おかしな話です。

人生の苦しみを乗り越えてきたAさんが、なぜ相場に限っては人を見る目を失うのでしょうか。我欲が自分を曇らせるのでしょうか。お

カネの魔力で舞い上がってしまうのでしょうか。

このような「相場病」という、専門医のいない難病にAさんはかかってしまいました。この難病を治すには、自分を見つめ、自分を客観視する訓練をしなければなりません。

上がるだろう下がるだろうと、簡単に決めつけて売買する人が多いようですが、自分の考えと逆の人がいるからこそ売買は成立します。つまり、自分の買いに対して相手は売っており、自分が売るなら相手は買っているのです。自分の考えが正しいと思う人は、同時に相手は間違っていると認識しなければなりません。では、なぜ自分は正しく相手は間違いだと言い切れるのでしょうか。おそらくそんな人は、自分中心に世の中が回っているのでしょうか。Aさんにはコペルニクス以前の哀しい遺伝子がのさばっているのです。そんな気持ちですから、予想と逆にいっても、損切りができません。損切りをすると損が確定しますし、正しい自分の間違いを認めたくないのです。また、予想通りにいったなら、じっくり持てばいいのですが、わずかの儲けで利喰ってしまいます。そう、本当は自信がない。だから空威張りする。損を取り戻すまでは悔しくて相場をやらすにはられないのです。

人生の酸いも甘いも十分知っているはずのAさんが、たそがれの年齢で、我欲の曇った思いにふらつく姿は、カラスに狙われた残飯です。たしかに歳を取るとなかなか自分のスタンスを変えることはできないものですが、命と愛の次に大事なおカネなのです。損を続けてきた人は、今までの自分を捨ててください。さらに、人に相談するのはやめることです。あなたほど他人は賢くありません。ゼロから出発することです。

遅くはありません。人生は今がすべてです。人生は今から始まり今に終わるのです。過去、未来を思い煩ってはなりません。人生は今の連続です。永遠の今に生きる決意をしてください。であれば、損をしたおカネを取り戻そうとは思わないでしょう。過去はないのですから。これからは、あなたの損でだれかが儲けていることに腹立たしさを感じ、自分が下手であることを認め、上手になるまではやらない、と決意してください。一所懸命稼いだ金を、どこかの馬の骨にやることはありません。

そして、このAさんは、あなたでもあるのです。次の項に進む前によく考えてみてください。

欲望からシステムへ

欲張りな人でも相場で儲けた人は数多くいます。ですが、欲張りな人が最期まで相場をやり続け、幸せに大金に囲まれて往生をとげるのは少ないのではないのでしょうか。

欲望をコントロールできなければ、最期まで儲け続けるのは難しいと思います。なぜなら、100勝1敗でも再起不能に陥る危険性があるのが相場だからです。

例えば、利益金を元本に加えて投下資金を膨らませ、失敗を損切りせずに持ちこたえようとするれば、一度の失敗で奈落の底に落ちるかもしれませぬ。すばらしい勝率をほこり、相場を見通す眼力を持った人でも、欲の皮がつっぱって資金管理を怠り、損切りのストップを使わ

なければ、とても悲惨な結果になるかもしれません。

相場で成功する人は、明日が読める人ではなく、欲を制御できる人だと私は思います。人は損をしたら取り返そうと思ひ、儲けたらもっと欲しくなります。欲望は影のように人間にとりついてきます。欲があるから相場をするのですが、自らの欲によって自らの首を締めてしまう。相場は皮肉な人生模様です。

商品相場は、つまるところ、人間同士の争いです。評論家は物知り顔に上がる下がると講釈しますが、相場で儲けるとは、上げ下げを当てることではありません。9勝1敗でもトータルで損することもあるものです。

「持っている玉の損切りの仕方」

「利喰い法」

「余裕資金の何%を相場に投ずるべきか」

これらが、相場を論ずるにあたって最重要の課題です。極端にいえば、仕掛けはさいころを振り、買いか売りを決めてもいいのです。相場は玉を持ってからが勝負なのです。

人のあとを追ひ、人を信用し、常識に疑問を抱かず、欲のおもむくままに生きている人は、商品相場には不適格です。では、欲の塊の人はどうすればいいのでしょうか。欲というものは簡単には捨てることができませぬ。性格も大人になってから変えるのは大変です。そこで登場するのがシステムなのです。

窮地に陥ったときや有頂天にはしゃいでいるときは、冷静に物事を見て的確に判断することが非常に難しいものです。喜怒哀楽は人間の愛すべき一面ではありますが、相場にとっては大いなる弱みになりま

す。弱みに付け込むのが、相場道の極意の1つです。今度こそは同じ失敗を繰り返すまいと神に誓うのですが、気がつけばまた同じことの繰り返しという現実に耐えている日々。ここからの脱却には、システムです。システムは冷徹です。感情はありませんから、動揺する弱みをカバーしてくれます。ダメージを受けるような損切りはせず、利益は伸ばし、資金運用の金額をはじいてくれるシステムを作れば盤石です。

しかし、ここで大きな問題が立ちふさがります。

だれがそんな頼りがいのあるシステムを作るのでしょうか。あなたが作ることができるならばよいのですが、システムのシの字もわからない人が多いでしょう。どのようにシステムを構築していくかは、本書の主題ではありませんし、とても難しいことです。私は頭の老化と闘いながらこれからも仕掛け、損切りの仕方、利喰い法、資金管理等研究していきます。読者も、本書やいろいろなものを参考にしつつ、自分なりのシステムをぜひ作り上げてください。

今までの自分の手法が悪弊だと思っても、改めることは容易なことではありません。染みこんで血肉になっているものを、他人からの感化で改められるほど、人間は簡単に造られていません。しかし、震えるほどに相場で勝ちたいのであれば、精進し続けなければならないのです。

第2章 とうきび日ばかり大作戦

さあ、この章からは具体的な売買手法の解説に入ります。まずは、板寄せ銘柄である東京とうもろこしを売買する「とうきび日ばかり大作戦」です。

板寄せ銘柄を日ばかりで攻略するなど、少し前までは全く考えられないことでした。以前は手数料が高かったため、売買回数が多くなると、儲けることは非常に難しかったのです。

しかし今はインターネットで気軽に注文できるようになり、手数料も安い会社では、日ばかりで20分の1以下になり、この作戦が実行可能となりました。

先んずれば人を制すと言います。時代の変わり目のとき（インターネットや手数料のこと）、果敢に攻める勇猛な人に勝利の女神が微笑みます。勉強して、自分の考えを確立してください。私の攻略法が、読者の相場攻略の一助になればうれしいです。

東京とうもろこしの攻略法

まず、図2-1をみてください。これは2年8カ月間における、とうきび日ばかり大作戦の損益曲線です。200万円以上も儲かりました。

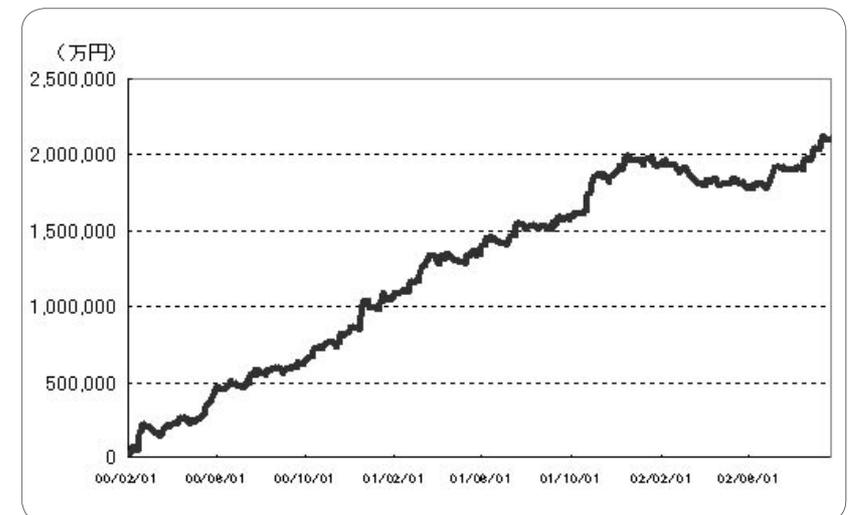
この方法は、結果として儲かるように最適化したものではありません。小学生にもわかるような、本当に単純な方法で儲かるのです。

この図の設定は、いくら儲かっても最低単位の1枚ずつしかやらない設定です。ですから、少しいじれば、より多くの見返りがあります。では、どのように売買したかを説明しましょう。

売買ルールは、とても簡単です。

とうもろこしの板寄せは1日6回。つまり売買する機会は一日6回あるわけです。しかし、寄り付きはやらずに様子を見ます。次に、前

図2-1 とうきび日ばかり大作戦の損益曲線（2000年2月～2002年9月）



場2節が寄り付きよりも高ければ買い、安ければ売るという注文を出します。これは**逆指し**と呼ばれる注文方法です。株式にはこのような注文形態がありませんから、戸惑う人もいるでしょう。しかし、逆指しを知らずして相場を語ることはできないほど重要な注文方法です。余談ですが、日本の株が逆指しを受け付けないことは悲しいことです。

さて、引き続き前場3節も、前場2節より高ければ逆指して新規買い、安ければ逆指して新規に売ります。そして、後場1節、後場2節も同じことを繰り返していきます。

成立した玉は、次の節で逆指しの手仕舞い注文を出します。買い持ちの玉は直近の値よりも安ければ仕切り、売り持ちの玉は直近の値よりも高ければ仕切ります。出来なければ出来るまで、次の節で同じことを繰り返します。

最後の引けは、持っている玉をすべて成り行きで仕切ります。このように日ばかりですから、次の日に玉は残りません。明日への不安がないということは素晴らしいことです。

このあと、具体的にデータを使って説明しますので、ここまで読んでわからない人がっかりしなくて大丈夫です。サルでもわかるなどという表現がちまたでは使われますが、私は控えめに小学生でもわかる戦略だと思っています。ただ、商品相場特有の表現は、勉強しておく必要があるでしょう。

逆指し注文とは

逆指しを使ったことのない人は、まず逆指しの概念をよく理解しな

ければなりません。日常の生活では使わない考え方ですから、頭を研ぎ澄まして読んでください。

100円の商品を90円で買いたい。この気持ちはだれでもわかるでしょう。素直で正直なところでは。しかし、100円の商品を101円以上でなければ買わないという、人間としては屈折しているような変わった方法が相場では儲かることがあるのです。高ければ買うけど、安かったら買わない心意気。どうかひと時、変人になってみてください。

100円のおにぎりがあります。友人が「110円出すからちょうだい」といっても、あげてはいけません。「110円はだめ。そんなにたくさんくれたら困る。90円か、もっと少ないお金でないとおにぎりはあげないよ」と言いましょ。

300万円の車があります。営業マンが「280万円にまけときますから買いませんか」と言われたら、「イヤです。400万円払わせてくれなければ買いません」と言いましょ。

おかしいですね。けれど、この非常識さが、相場で儲かる1つの方法論なのです。皆と同じことをやっているでは勝てません。人の行く裏に道あり、花の山なのです。

実際の売買注文の仕方

それでは2002年9月20日を例にとり、実際の売買の流れをみてもらいましょ。

2002年9月20日 東京とうもろこし先限約定値

前場1節	16210円	後場1節	16240円
前場2節	16190円	後場2節	16370円
前場3節	16240円	後場3節	16390円

午前9時半ごろ注文

16220円逆指し新規買い1枚注文
16200円逆指し新規売り1枚注文

午前10時過ぎ

16200円逆指し新規売り1枚成立

残玉：16190円売り1枚 1-0

午前10時半ごろ注文

16200円逆指し新規買い1枚注文
16180円逆指し新規売り1枚注文
16200円逆指し仕切買い1枚注文

午前11時過ぎ

16200円逆指し新規買い1枚成立
16200円逆指し仕切買い1枚成立

残玉：16240円買い1枚 0-1

午前11時半ごろ注文

16250円逆指し新規買い1枚注文
16230円逆指し新規売り1枚注文
16230円逆指し仕切売り1枚注文

午後1時過ぎ

注文成立せず

残玉：16240円買い1枚 0-1

午後1時半ごろ注文

16250円逆指し新規買い1枚注文
16230円逆指し新規売り1枚注文
16230円逆指し仕切売り1枚注文

午後2時過ぎ

16250円逆指し新規買い1枚成立

残玉：16240円買い1枚
：16370円買い1枚 0-2

午後2時半ごろ注文

成り行き 2枚仕切り

0-0

では、この日の売買について、それぞれ説明をします。

午前9時過ぎ、寄り付きは16210円という値段がつかしました。次に考えることは1つだけ。高ければ買い、安ければ売ります。注文はその節だけにします。

ある値段で買いたいときや売りたいときには「指値をする」といいますが、高ければ買い、安ければ売るときは「逆指値をする」といいます。100円の商品を90円以下で買いたいときは「90円で買いの指値をする」といいます。そして100円の商品を110円以上で買いたいときは「110円で買いの逆指しをする」といいます。この逆指しの場合、109円以下では買えません。110円以上の値段がついて買えることになります。その違いと理屈を覚えてください。

この例では、午前9時半ごろに注文を出していますが、ポイントは直前の値から10円高く買いの逆指値を、10円安く売りの逆指値をすることです。

前場2節の値段は16190円ですから、16200円の逆指し新規売り注文は成立しました。10時半ごろの注文は、前場2節の値から10円高く、10円安く逆指しの注文をします。また、売り玉を持っていますから、買いの仕切り注文を10円高く逆指しで出します。

ここまでを要約すると、値段がつくのは1日6回。1回目は売買しない。2回目からは直前についた値から、10円高く逆指し新規買いと10円安く逆指し新規売りをします。それを後場2節まで続ける。成立した玉は、次の節で、逆指しで仕切る。仕切ることができなければ、後場2節まで毎回出し続ける。仕切り注文の出し方は、売りを持っていれば、直前の値よりも10円高く逆指しで仕切る。買いを持っていれば、